

## 2231106 我妻拓弥

私が英語講座に参加し、感じたことは大きく分けて3つある。

1つ目は、授業に対する考え方だ。イギリスの人とはとにかく明るく、前向きに、楽しもうとする姿勢が感じられたと思う。例えば、授業の中で簡単なゲームをやったり、自分が感じたこと・考えたことを発表したりする活動があったりと、生徒が主体的に取り組むことができるような環境作りがなされている。特に、大学外に出て行う活動があったことが、個人的に最大の驚きだった。日本では最近になって増えてきた考えではあるが、私としてはこちらのやり方はとても興味深いと感じたし、参加していて楽しかった。こうした考え方は授業以外の場面でも感じるが多かった。私は特に、English Conversationの中でそれを感じるが多かったように思う。English Conversationでは、それぞれのレベルにあったテーマを選択してグループを作り、回し役が全員に話を振っていく形で交流を深めることができた。その中で、わからない単語や、それに関連した単語をホワイトボードに書いて発音してみるなど、様々な人が楽しみながら成長していくことができる工夫を感じることができた。私はどちらかというとながティブな考え方をしてしまう方なので、こうした考え方を持つ人々に触れることができ、様々な刺激を受けることができたと思う。

2つ目は、文化の違い、特に宗教による違いだ。普段はあまり教会や寺、神社などの宗教の建物を意識することは少ないが、日本では見かけないキリスト教の建物やそれに関連した名前が多いこともあり、日本とは違った宗教観に触れることができたと思う。特に、長い歴史をもつカンタベリー大聖堂を見ることができたことは良い経験になったと思う。そして、偶然ではあるが、大聖堂の中で賛美歌を聞くことができた。日本では絶対に見ることができない光景に、心動かされたことを鮮明に思い出すことができ、貴重な体験を得ることができた。また、宗教以外にも営業時間の違いに衝撃を受けた。日本では多くの店が21時や22時といった深夜帯まで営業している店が多いのに対し、イギリスでは特に土日など、16時や17時までしか営業していない日がある。こうした違いに驚いたとともに、日本人が働き者といわれる理由がわかったような気がする。ほかには、Pubと呼ばれる大衆酒屋に近い店にも衝撃を受けた。その理由としては、空いている席に好きに座って構わないという店だからだ。日本では基本的に店員の人々が席に案内し、店員がオーダーを聞きに来る。しかし、Pubでは空いている席を自分たちで探し、自分でカウンターに注文をする。日本ではこういった形式のお店は経験したことがなかったので、非常に興味深いものだった。

3つ目は、考え方の多様性や権利などの尊重についてだ。私がこれに関して最も興味深いと感じたことは、どの料理店でもヴィーガン用のメニューがあったことだ。日本では見たことがない表記だったので、かなり驚いたことを覚えている。こうした多様性は海外で生まれたものが多いとはいえ、権利や思想を尊重するという意味で多様性が認められているのは素晴らしいことだと感じた。また、料理のメニューにはチキン・ビーフ・ポークがそれぞれ用意されているなど、宗教的な面からも配慮を感じることができた。これに関しては、マナ

一講座でレストランを利用した際にもどの種類のお肉がいいか確認があった。日本では全くと言っていいほど聞かれることはないし、自分が意識したことはなかったので、少し不思議な感覚だった。さらに、身近なところでは学生寮の中でも様々な活動が行われていた。寮内にある Pub の中では毎日のように催しが開催されていて、主にフットボールの観戦や留学生の交換会なども行われていた。その中でも、LGBT のクイズが行われていたことに驚いた。自分は参加することはなかったが、こうした問題を多くの人に知ってもらうような取り組みが行われていることを知ることができた。そのほかにもカラオケのような雰囲気の日があったり、卓球ができる場所があったりと、自分ではなじみがないものが多く、新鮮で楽しかった。

以上の3点が、私が英国口座で主に感じたことである。今回の経験をこの先の人生に活かし、様々なことに挑戦していきたい。